

# ラジオCMコンバーター・ソフト FAQ

大項目	項目	Questions	Answers
ラジオCMコンバーター	導入にあたって	1枚のCD-ROMからたくさんの端末にコンバーターをインストールして使用することはできますか？	ラジオCMコンバーターのインストールは1CDにつき1台のPCまでのインストールでの使用をお願いいたします。
		コンバーターのインストールができません。	社内LAN上等、SETUP.exeの実行を禁止された環境下ではインストール出来ない可能性があります。詳しくはシステムご担当者にご相談ください。
		Macintoshでの使用は可能ですか？	ラジオCMコンバーターはWindows OS 98SE以降、2000、XPに対応しております。
		コンバーターの価格は？	広告会社仕様・放送局仕様・ポスプロダクション仕様 各47,250円(税込)です。
	アラートについて	コンバーターの使用方法のデモンストレーションをしてもらいたいのですが？	申し訳ございませんが、現在のところお受けすることができません。
		広告会社仕様(放送局仕様)でファイルを開くと赤×がでるのですが、問題があるのでしょうか？	ラジオCMコンバーターの広告会社仕様(放送局仕様)では登録されたCM秒数と実際の本編の秒数を比較し、異なっている場合に赤×を表示します。MO運用暫定ルールでは、実際の本編の秒数を計算する為のBC\$と呼ばれる情報が無い素材でも入稿が可能となっている為、赤×が表示される事もありますが、当面の運用上は問題ありません。
MOからファイルを開こうとすると「ドライブが書き込み禁止または空き容量がないため、上書き保存することはできません。ファイルを開きますか？」とアラートがでるのですが、		広告会社、放送局での運用時には納品されたMOは内容を保護する為にライトプロテクトがかかっています。このアラートは正しく内容保護されたファイルをラジオCMコンバーターで開こうとした際に表示されるもので、通常作業でこのアラートは正しい手順でMOが運用されていることを意味します。内容確認のみ(リードオンリー)の場合はOKボタンをクリックしてそのまま開き作業を行ってください。内容変更や情報追記が必要な場合に限り、ライトプロテクトを外してから作業してください。	
CM情報について	添付ファイルを確認しようとすると「アプリケーションが登録されていません。アプリケーションを登録して再度やりなおしてください。」とアラートがでて確認できません。	ラジオCMコンバーターで添付されたファイルの確認をするには、コンバーターで添付ファイル(PDFファイル、csvファイル)の確認用外部アプリケーションを登録する必要があります。広告会社仕様、放送局仕様では、画面左上部のMAIN/SUB画面切り替えてSUB画面を表示し、添付ファイル表示アプリケーション選択で確認用外部アプリケーションを指定してください。*添付ファイルについて	
	ラジオCMコンバーターでファイルを開くと「規定外のサンプリング周波数です。処理を続けます。」とアラートがでます。	ラジオCMコンバーターでは48kHz 16bit Liner PCM形式のWAVEファイルもしくはBWF-Jのファイルに対応しています。サンプリング周波数が一部の放送局等で使用している44.1kHz等になっておりますと、ファイルを開く事はできますが、その際にアラートが出るようになっております。	
	ラジオCMコンバーターを強制終了した後、もう一度起動すると「既に起動しています」というアラートが表示されるのですが？	何らかの理由でラジオCMコンバーターを強制終了等された場合、次回起動時にこのアラートがでる場合があります。その際にはシフトキーを押しながらアラートダイアログのOKボタンを押してください。ラジオCMコンバーターの起動情報がリセットされ、正しく起動する事が可能となります。	
	同広告主、商品のCMでバリエーションが多い場合、CM情報入力にはバリエーションタイプ毎に全ファイル同じ項目を入力しなければならないのですか？	MOによるラジオCM運用の暫定ルールではバリエーションタイプであっても全てのラジオCMについて各ファイル毎に必要な項目を入力して頂く事となっています。ただし、全ファイルに共通して入力する項目がある場合には、まず1ファイル入力後にCM情報の書き出しボタンを押してCM情報をcsvファイルとして保存してみてください。次のファイル以降このcsvファイルをCM情報取り込みボタンで取り込む事で共通項目への入力作業を軽減できます。	
BC\$について	CM情報で分からない項目があるのですが？	ラジオCMコンバーターで入力可能なCM情報は暫定ルール上では全項目の入力が必須とはなっていません。入力項目と入力内容に関しては各担当広告会社にお問い合わせください。	
	CM情報が何も表示されないのですが？	MOディスクビューアで確認した際にファイル名は表示されていますか？ファイル名が表示されている上でCM情報が表示されていない場合はそのラジオCM素材にはCM情報の入力がない事になります。MOディスクビューアの左端No.ボタンをクリックしてみてください。ラジオCMコンバーター画面が起動し、左上のR-CM、BWF-J、WAVEの表示のどれかが白転しているはずですが、WAVEが白転している場合、対象ファイルはWAVEファイル(音声データのみ)となりCM情報は入っていません。BWF-J(ラジオ放送用フォーマット)が主として番組用でありCM情報は入っていません。R-CMが白転している場合、対象ファイルはBWF-JラジオCM拡張仕様となりCM納品基準ファイルですが、CM情報が表示されていないということはCM情報が未入力な状態と考えられます。ラジオCM運用の暫定ルール(2004年5月現在)では当面CM情報が未入力のファイルも納品可能となっております。	
	ラジオCMコンバーターはBC\$の入力に対応しないのですか？	ラジオCMコンバーターはBWF-JラジオCM拡張仕様のCM情報の読み書きを行う為に使用するアプリケーションですので、ベースとなったBWF-Jフォーマットに規定されているBC\$を読み取ることはできませんが入力には対応していません。本来CM制作時、編集時に確定されるキューポイントの情報ですので録音機器、編集ソフトの対応を待っている状態ですが、現在のところBC\$を直接入力できる機器はMOレコーダー等に限定されている状況です。ラジオCMのMO入稿に関する暫定ルール(2004年5月現在)ではBC\$の入力は今のところ必須とはされておませんが、将来的には入力が必要になる予定ですので入力できる環境を整えておかれる事は大切です。	
	添付ファイルについて	ラジオCMコンバーターでサポートする添付ファイル数は1ラジオCM素材につきナレーション原稿とスケジュール表(連絡表)の合計で9ファイルまでとなっております。	
MOディスクビューア	添付ファイル表示アプリケーション選択の選択の仕方が良く分かりません。	添付ファイル表示アプリケーション選択では、実際に添付ファイルを開くアプリケーションを選択する必要があります。ナレーション原稿の場合、ファイルはPDFファイルですので、一般的なPDFビューアを選択します(Adobe AcrobatReader等)。スケジュール表(連絡表)の場合はcsvビューア(Microsoft Excel等)もしくはテキストエディターでも確認はできます。実際のアプリケーションは多くの場合、マイコンピュートローカルディスク(C) Program Files (アプリケーションメーカー名) に入っていますので、添付ファイル表示アプリケーション選択の選択ボタンを押して、上記Program Filesの中から該当アプリケーションを選択してください。	
	ラジオCMコンバーター(広告会社仕様、放送局仕様)の画面左上のR-CM、BWF-J、WAVEマークの意味はなんですか？	WAVEは音声データのみファイル、BWF-JはWAVEファイルに放送用の情報がついたラジオ放送用フォーマット、BWF-JラジオCM拡張仕様はさらにCM運用のための情報がついたものですが、音声データの再生等の互換はありません。パソコン上でファイルの種類を別ける為に付けられる拡張子はWAVE、BWF、BWF-J、BWF-JラジオCM拡張仕様ともに同じ.wavが付けられています。ラジオCMのMO運用で使用されるファイルフォーマットはBWF-JのラジオCM拡張仕様推奨されていますが、ファイル名だけでは識別が困難なため、広告会社仕様、放送局仕様では同じ拡張子のBWF-JやWAVEのファイルを識別できるように画面左上にマークで表示するようになっています。BWF-JやWAVEのマークが白転している場合はBWF-JラジオCM拡張仕様になっていないという事ですので、制作プロダクションに確認してください。	
	素材秒数と素材内CM尺(BC\$STANDBY～BC\$END間)の秒数が違うのに青が表示されるのですが？	ラジオCMコンバーター内の素材秒数判定精度は1/100秒になっています。ですので、素材秒数が1/1000秒単位で誤って入力されても、と判断しますので運用上問題はありません。例:素材内CM尺20.00秒 素材秒数20.001秒	
	ラジオCMコンバーターの視聴ボタンを押しても音が聞こえない。	視聴のボリュームバーが下がっていませんか？ラジオCMコンバーターはインストール時には視聴のボリュームバーが0の状態になっています。ボリュームバーを上げてみてください。またラジオCMコンバーターのボリュームが下がっているのに音が聞こえない場合はWindows、または接続機器の音声ボリュームがオフもしくは下がっている場合もあります。合わせて確認してください。視聴コントローラーの右側にあるレベルインジケーターが反応している場合はラジオCMコンバーターからは視聴再生が出来ている状態です。	
	ProToolsから書き出したwavファイルをコンバーターで保存が出来ません。	ProToolsから書き出したファイルは拡張子が.wavとなってもフォーマットとしては海外対応のBWFとなり、BWF-Jではありません。ラジオCMコンバーターではBWF-JかWAVEフォーマットのファイルの読み込みに対応している為、正しく保存できない場合があります。ProToolsで書き出したwavファイルは別途音声編集アプリケーションでWAVEファイルに保存し直す事でラジオCMコンバーターでの利用が可能となります。	
	MOに入っているラジオCM素材がMOディスクビューアに表示されません。	MOディスクビューアで指定している場所がMOドライブになっていますか？MOと異なる場所を開いている場合はMOディスクビューアの「開く」ボタンからMOドライブを指定してください。正しくMOドライブが指定されている上でファイルとして存在するラジオCM素材が表示されない場合、ラジオCM素材が納品基準と異なっている可能性があります。MOディスクビューアでは48kHz 16bit Liner PCMの.wavファイルを表示します。それ以外のファイルは表示されません。(フォーマットがBWFの場合は表示されませんが納品基準フォーマットではない為、ラジオCMコンバーターでの保存時に正しく保存されない場合があります。) また、ラジオCM素材が10ファイル以上MOに入っている場合は1画面に表示が収まりません。この場合は画面右側のスクロールバーを移動させる事で11以上のファイルを確認する事が出来ます。	
MOディスクビューアでMOを開くとMOに入っているラジオCM素材の秒数が赤字で表示されるのですが、問題があるのでしょうか？	ラジオCMコンバーターの広告会社仕様(放送局仕様)では登録されたCM秒数と実際の本編の秒数を比較し、異なっている場合に秒数を赤字で表示します。MO運用暫定ルールでは、実際の本編の秒数を計算する為のBC\$と呼ばれる情報が無い素材でも入稿が可能となっている為、赤字が表示される事もありますが、当面の運用上は問題ありません。		
MOディスクへの素材格納	1本のMOに、何本のラジオCMを保存することができますか？	ラジオCM MO運用の暫定ルールに則ったラジオCM素材は20秒タイプで約12MB、40秒タイプで約15MBになります。640MBのMOディスクに格納するには計算上は20秒タイプで約52本、40秒タイプで約41本程度、230MBのMOディスクの場合は20秒タイプで約19本、40秒タイプで約15本程度入る事になりますが、安定的な運用の為に常にディスク容量の約50%を空きエリアとして確保していただくことをお勧めいたします。従いまして640MBのディスクの場合20秒タイプで25本、40秒タイプで20本、230MBのディスクの場合20秒タイプで9本、40秒タイプで7本程度が目安となります。ただし、実際の放送局納品に際しては1ディスクあたりのCM本数はできるだけ少ないほうが識別の間違え等が発生しにくく安全です。	
	MOのラベル印刷はできませんか？	ラジオCMコンバーターで入力したCM情報、およびMOディスクビューアで表示される情報はcsvファイルに書き出して保存することができます。このcsvファイルと市販のラベル印刷ソフトを利用してMOラベルの作成が可能です。ただし、使用できるラベル印刷ソフトはMOラベルの用紙に対応しており、csvファイルのデータを任意のレイアウトで印刷用フォーマットとして設定することの出来る必要があります。現在のところラジオCM用の印刷テンプレート等はございませんので、レイアウトは暫定ルールに沿って各自で設定していただくことになります。	

(参考)  
BWF-JラジオCM拡張仕様については、JPPA・NAB・JAAAの共同作業によって検討され、規格を決定してまいりました。今後、ラジオCM運用(暫定)ルールの見直しに伴い、その規格を見直すこともあります。また、この規格はJPPA BWF-J運用規定Level-1に対応しております。(JPPAホームページ<http://www.jpjanet.or.jp/>をご参照ください。)